

# パトナム・モーゲージ・セキュリティーズ・ファンド

---

米国籍オープン・エンド契約型公募外国投資信託(米ドル建て)

## 交付運用報告書

作成対象期間

第25期(2018年10月1日～2019年9月30日)

第26期(2019年10月1日～2019年12月9日(償還日))

管理運用会社

パトナム・インベストメント・マネジメント・エルエルシー

代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社



# パトナム・モーゲージ・ セキュリティーズ・ファンド

米国籍オープン・エンド契約型  
公募外国投資信託(米ドル建て)

## 交付運用報告書

作成対象期間

第25期(2018年10月1日～2019年9月30日)

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

### その他の記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<https://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

### 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、パトナム・モーゲージ・セキュリティーズ・ファンド(以下「ファンド」といいます。)は、このたび、第25期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、元本確保と一貫性を有すると管理運用会社が考える高い利回りのインカム収益を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に対して、厚く御礼申し上げます。

### クラスM受益証券

第25期末	
1口当たり純資産価格	13.03米ドル
純資産総額	10,224,540米ドル
第25期	
騰落率	9.57%
1口当たり分配金合計	0.56米ドル

(注1)騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注2)1口当たり分配金は、税引前の分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

管理運用会社

パトナム・インベストメント・マネジメント・エルエルシー



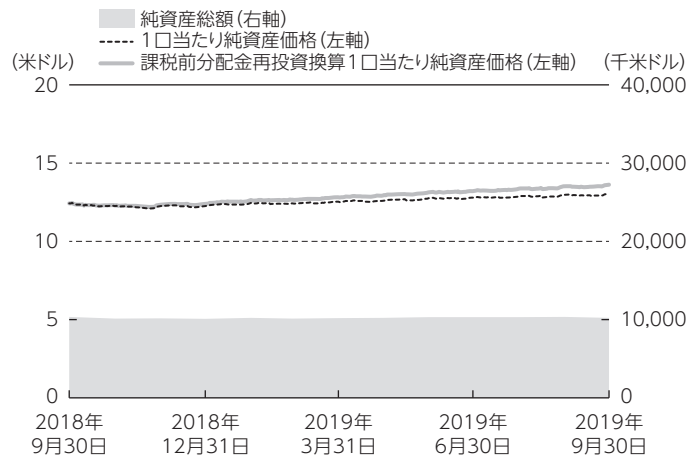
代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

## 運用経過

### ■ 当期の純資産価格等の推移

#### クラスM受益証券



1口当たり純資産価格	
第24期末	12.43米ドル
第25期末 (1口当たり分配金額)	13.03米ドル (0.56米ドル)
騰落率	9.57%

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注2) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、第24期末(2018年9月30日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注3) ファンドにベンチマークは設定されていません。

### ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

後記「投資環境について」ならびに「ポートフォリオについて」をご参照ください。

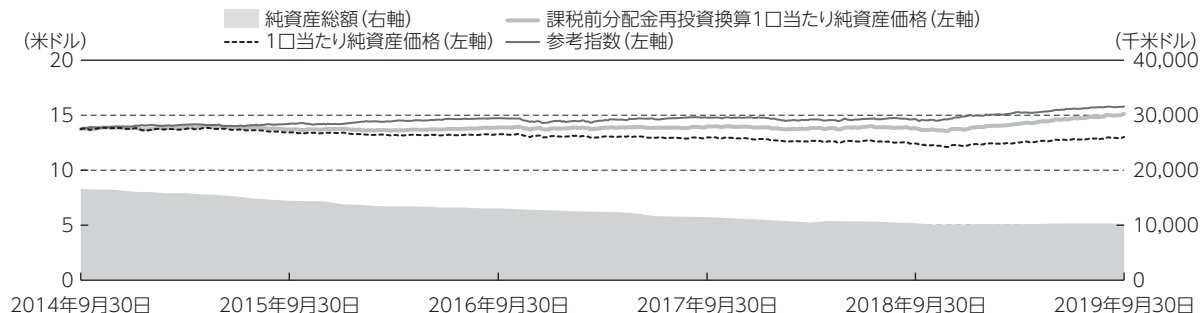
## ■ 費用の明細

項目	項目の概要																			
管理運用報酬	<p>報酬は、月次のファンドの平均純資産に対して適用される料率で計算されます。料率は、管理運用会社が管理するすべてのオープン・エンド型ファンドの純資産総額(当該資産の「二重計算」を回避するために必要な範囲において、他のパトナム・ファンドに対して投資されるファンドの純資産および他のパトナム・ファンドにより投資されるファンドの純資産を除き、当該月の各営業日の終了時に決定されます。)の月額平均(「オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド平均純資産総額」)に基づきます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド</th> <th>平均純資産総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50億米ドル以下の部分について</td> <td>0.550%</td> </tr> <tr> <td>50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について</td> <td>0.500%</td> </tr> <tr> <td>100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について</td> <td>0.450%</td> </tr> <tr> <td>200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.400%</td> </tr> <tr> <td>300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について</td> <td>0.350%</td> </tr> <tr> <td>800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.330%</td> </tr> <tr> <td>1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.320%</td> </tr> <tr> <td>2,300億米ドル超の部分について</td> <td>0.315%</td> </tr> </tbody> </table>	オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド	平均純資産総額	50億米ドル以下の部分について	0.550%	50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について	0.500%	100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について	0.450%	200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について	0.400%	300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について	0.350%	800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について	0.330%	1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について	0.320%	2,300億米ドル超の部分について	0.315%	<p>ファンドの管理運用業務およびファンド資産に関する投資顧問業務および日々の投資運用業務の対価として管理運用会社に支払われます。</p>
オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド	平均純資産総額																			
50億米ドル以下の部分について	0.550%																			
50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について	0.500%																			
100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について	0.450%																			
200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について	0.400%																			
300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について	0.350%																			
800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について	0.330%																			
1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について	0.320%																			
2,300億米ドル超の部分について	0.315%																			
(副管理運用報酬)	<p>(管理運用会社は、副管理運用会社が運用しているファンド資産の平均純資産総額の0.25%の料率で副管理運用会社に支払います。)</p>	<p>(ファンド資産の一部に関する投資顧問業務の対価として管理運用会社から副管理運用会社に支払われます。)</p>																		
保管報酬	<p>ファンドと保管会社が随時合意したところにより、ファンド資産から、毎月、当該月中のファンド資産の日々の平均純資産総額に基づく合理的な保管報酬を受領します。</p>	<p>保管業務の対価として保管会社に支払われます。</p>																		
投資者サービス代行報酬	<p>ファンドの平均資産の年率0.250%を超えないものとします。</p>	<p>投資者サービス代行業務の対価として投資者サービス代行会社に支払われます。</p>																		
その他の費用(当期)	<p>0.33%</p>	<p>受託者報酬および費用、販売計画報酬、管理事務報酬ならびにその他のすべての費用</p>																		

(注)各報酬については、目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」については運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれています。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

## ■ 最近5年間の純資産価格等の推移について

### クラスM受益証券



	第20期末 (2014年9月30日)	第21期末 (2015年9月30日)	第22期末 (2016年9月30日)	第23期末 (2017年9月30日)	第24期末 (2018年9月30日)	第25期末 (2019年9月30日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	13.75	13.40	13.26	12.95	12.43	13.03
1口当たり分配金合計 (米ドル)	-	0.28	0.34	0.36	0.40	0.56
騰落率 (%)	-	-0.53	1.49	0.41	-0.94	9.57
参考指数の騰落率 (%)	-	3.43	3.61	0.30	-0.92	7.80
純資産総額 (千米ドル)	16,562	14,451	13,059	11,452	10,342	10,225

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびファンドの参考指数は、第20期末(2014年9月30日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注2) ファンドの参考指数はブルームバーグ・パークレイズ・US MBS・インデックスです。

## ■ 投資環境について

米国のモーゲージ証券は、米連邦準備制度理事会(FRB)でハト派的な動きが強まったことに支えられ堅調に推移しました。しかしながら、市場の軌道は円滑ではありませんでした。投資家が米国と中国の貿易交渉に関する進展や後退のニュースを消化しようとするなか、ボラティリティの上昇につながりました。また、世界経済の減速の兆候がリスク資産にも重荷となりました。

2018年12月に政策金利の誘導目標を引き上げた後、FRBはタカ派的な姿勢ではなくなりました。FRBの政策当局者は、「事前に定められた」方針ではないと述べ、将来の利上げを一服させる意向を示しました。2019年第2四半期になると景気後退懸念が強まりました。投資家がFRBをはじめとする各国中央銀行の利下げを予想する中、債券は反発し、利回りは世界的に低下しました。6月に指標銘柄の10年物米国債利回りは2%を下回り、イールド・カーブは3か月物から10年物にかけて横ばいからやや反転しました。

広く予想されていたように、FRBは2019年7月31日に政策金利の誘導目標を引き下げました。パウエル議長は、引き下げは経済成長を支えるための景気サイクル中盤における調整であると述べました。進行中の米中の貿易摩擦ならびにイギリスの欧州連合(EU)離脱の仕組みが明確でない中、FRBは9月に2度目の引き下げを発表しました。香港とイタリアでの政治リスクおよびトランプ大統領に対する弾劾尋問の動きがさらなる不安材料となりました。FRB関係者は、景気後退を防ぐために行動し、年末までにもう一度利下げする可能性を残すことを繰り返し述べました。

参考指数となる10年物米国債の利回りは12か月間で3.06%から1.67%へと大幅に低下しました。米国債の2年物から10年物にかけてのイールド・カーブは、2019年8月に逆イールド化しました。多くの投資家はこのような状態を

景気後退が起こりやすい兆候と解釈しています。逆イールドは、直近の2007年から2009年にかけての景気後退を含め、過去5回のサイクルの各景気後退に先行しました。多くのエコノミストは景気後退の可能性が顕著であるとは考えていませんが、市場の状況が多くの投資家を株式よりも社債を好む、よりリスク回避的な考え方に傾かせました。

## ■ ポートフォリオについて

ファンドは2019年9月末に終了した年度において、新参考指数および旧参考指数を上回るパフォーマンスでした。この結果に貢献した戦略と保有銘柄について

メザニン商業用モーゲージ証券(CMBS)への配分は好調に推移し、参考指数に対する主なプラス要因となりました。リテール部門は苦戦しているものの、一部の市場参加者が過去1年間、CMBS市場への空売りの試みを断念したことから、予想を上回るパフォーマンスを達成しました。CMBXを通じたCMBSに対するファンドのエクスポージャーは特に有益でした(CMBXは特定の年に発行されたCMBSのバスケットを参照するインデックスです。)。CMBXの中で、2012年発行のシリーズ6のBBB格のメザニン・トランシェに対するファンドのエクスポージャーは、かかる期間に他のリスク資産とともに上昇しました。これはスプレッドが引き締まりを続けたことに反映されています。(イールド・スプレッドは、クレジット・リスク債券の利回りと同等の満期日の米国債と比較しての利回り格差です。)

エージェンシー・クレジット・リスク・トランスファー証券(CRT)を通じた住宅用MBSに対するファンドのエクスポージャーもプラスリターンを生み出しました。市場は引き続き堅調な投資家需要、住宅のファンダメンタルズ改善ならびに格付け会社の格上げなどに支えられています。

### 相対的なマイナス要因について

期限前償還戦略のみが唯一ファンドのパフォーマンスのマイナス要因となりました。政府機関系インタレスト・オンリー・モーゲージ担保債務証券(IO CMO)への配分は、2018年第4四半期のリスクオフ・センチメントにより、当期間中小幅なマイナス・パフォーマンスとなりました。

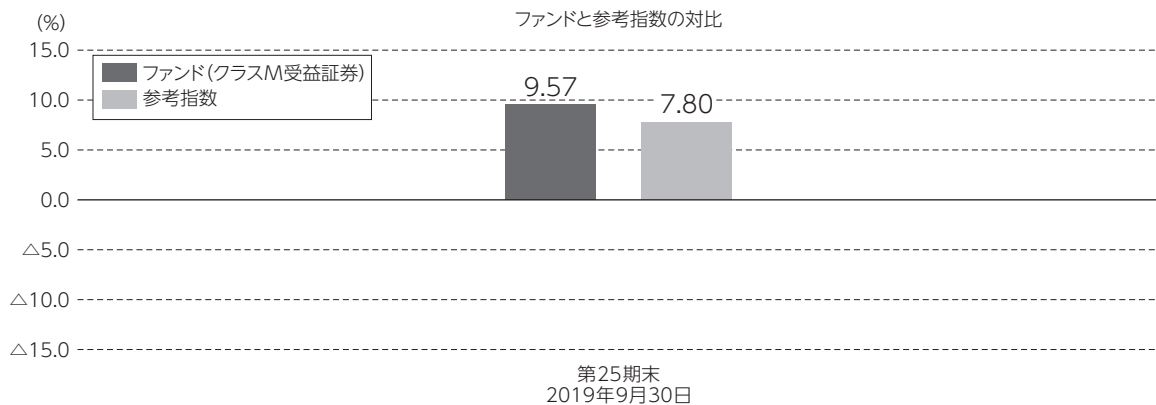
### 当期中におけるファンドの金利およびイールド・カーブのポジションについて

期間構造戦略はパフォーマンスに結びつきました。当期中において、ファンドのデュレーションはファンドの参考指数よりもわずかに長いものでした。これは、金利が低下するにつれて、ファンドが幅広い市場インデックスよりも多くの金利感応度を持っていたことを意味していました。また、ファンドは、イールド・カーブ全体が低下した際にイールド・カーブのフラット化を想定したポジションから恩恵を受けました。

### 期間中のデリバティブの利用について

クレジット・デフォルト・スワップを用いて信用リスクおよび市場リスクをヘッジしました。ファンドのデュレーションならびにイールド・カーブのポジションに内在するリスクをヘッジするために金利スワップを利用しました。また、デュレーションとコンバクシティのヘッジ、CMOの保有に関連する期限前償還リスクの分離、および全体的なダウンサイド・リスクを管理するために、オプションを利用しました。さらに、ファンドのセクター・エクスポージャーをヘッジし、市場の特定分野へのアクセスを得るためにトータル・リターン・スワップを用いました。

## ■ 参考指数との差異について



(注) ファンドの参考指数はブルームバーグ・バークレイズ・US MBS・インデックスです。

## ■ 分配金について

当期(2018年10月1日～2019年9月30日)の1口当たり分配金(税引前)は下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

クラスM受益証券

(金額:米ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金 (対1口当たり純資産価格比率(%)(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額(注2)
2018年10月16日	12.29	0.043 (0.35%)	-0.17 <sup>(注3)</sup>
2018年11月14日	12.18	0.047 (0.38%)	-0.06
2018年12月14日	12.24	0.047 (0.38%)	0.11
2019年 1 月15日	12.36	0.047 (0.38%)	0.17
2019年 2 月13日	12.38	0.046 (0.37%)	0.07
2019年 3 月14日	12.42	0.047 (0.38%)	0.09
2019年 4 月17日	12.53	0.046 (0.37%)	0.16
2019年 5 月16日	12.62	0.047 (0.37%)	0.14
2019年 6 月18日	12.75	0.046 (0.36%)	0.18
2019年 7 月18日	12.78	0.046 (0.36%)	0.08
2019年 8 月16日	12.80	0.047 (0.37%)	0.07
2019年 9 月18日	12.90	0.046 (0.36%)	0.15

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%)=100×a/b

a=当該分配落日における1口当たり分配金

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額=b-c

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2018年10月16日の直前の分配落日(2018年9月14日)における1口当たり純資産価格は、12.50米ドルでした。



## 今後の運用方針

### 今後の見通しについて

米国経済、特に製造業は、米中貿易戦争を受けて減速の兆しを見せていると考えています。また、個人消費が底堅く推移し、雇用も堅調に推移しているものの、今後の不確実性が企業マインドを圧迫しているように見受けられます。地政学的な問題は別にして、主たる関心は貿易摩擦が深まるかどうかです。これは、これまで貿易摩擦の影響を受けなかった米国経済の他の主要部分に逆風をもたらす可能性があります。

FRBの金利政策については、利下げを一服するか、それとも徐々に続けるかという点で、タカ派とハト派の間に格差があるように見えます。FRBは緩和を続け、当期末から2020年7月までの間にさらに50bp(0.5%)の短期利下げを見込んでいると考えています。

### 最も魅力ある市場について

ファンドは引き続き、CMBSに対するファンドのエクスポージャーを通して示されるモーゲージ・クレジットについて概ね良好な見通しをもっています。当該セクターは引き続き、全般的に好調な米国経済のファンダメンタルズに支えられていると考えます。その中には、堅調な労働市場、低金利、堅調なGDP成長などが含まれます。また、CMBXは現物債よりも相対的な価値を見出し得ると見えています。なぜなら、この指数は弱気なリテール・センチメントを間違っていると誤って反映しているからです。

CRT市場の中で、メザニンおよび劣後トランシェのポジションを維持しています。これらの保有は、新たに発行されたCRTと比較して、より選別された融資であり、ローン・トゥ・バリュー特性が低いからです。これらの組成基準はより強力であり、期限前返済の増加とローン・トゥ・バリュー・レシオの低さが信用格付けの上昇につながっています。

IO CMO内でチャンスを見だしていきます。セクター内での銘柄選択は引き続き重要です。一方、米国債に対するモーゲージのспレッドが拡大したことを利用するために、わずかながらポジションを維持します。この戦略は、カレント・クーポンの30年物エージェンシー・パス・スルーと米国30年物国債の利回り格差から利益を得ようとするものです。

### 分配金について

ファンドのクラスM受益証券の分配金は、ポートフォリオから生み出される収入の増加により、2018年11月に1口当たり0.047ドルに上昇しました。他のクラスについても同様に増加しました。

## お知らせ

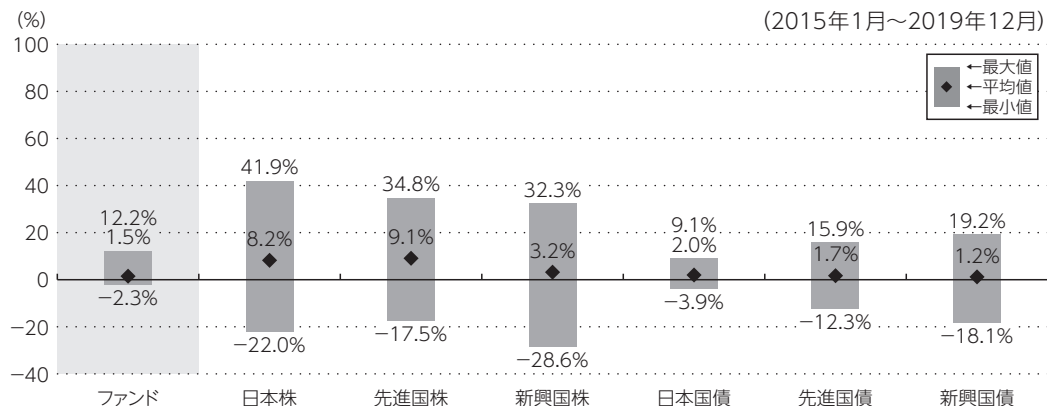
ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日に償還しました。

## ファンドの概要

ファンド形態	米国籍オープン・エンド契約型公募外国投資信託
信託期間	無期限。ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日に償還しました。
繰上償還	ファンドまたはいずれかのシリーズもしくはいずれかのシリーズのクラスは、①受託者がファンドの受益者または当該シリーズもしくはクラスの受益者に書面で通知することにより、または②(i)議決権を有する各シリーズまたはクラスの発行済受益証券の50%超、もしくは(ii)当該目的のために招集された総会において、議決権を有する各シリーズまたはクラスの発行済受益証券の50%超が出席または代理出席した場合、その議決権を有し、その総会に出席する各シリーズまたはクラスの受益証券の67%超の、いずれか少ない数の賛成票により、いつでも終了させることができます。
運用方針	ファンドの投資目的は、元本確保と一貫性を有すると管理運用会社が考える高い利回りのインカム収益を追求することです。
主要投資対象	ファンドは、主に、投資適格または投資適格未満のモーゲージ証券、モーゲージ関連証券および関連するデリバティブ(モーゲージ証券またはモーゲージ関連証券のエクスポージャーを取得するため、もしくは裏付証券がモーゲージ証券またはモーゲージ関連証券であるデリバティブ)に投資します。通常、ファンドは、ファンドの純資産総額(投資目的の借入れ額を加えます。)の80%以上をモーゲージ証券、モーゲージ関連証券および関連するデリバティブに投資します。
ファンドの運用方法	ファンドの運用チームはチーム・アプローチを採用しており、約90名で構成される管理運用会社の債券運用部門の一部であるマルチ・セクター債券チームの幅広いリソースを利用して運用しています。
主な投資制限	<p>議決権を有する発行済受益証券の過半数の賛成なくしては変更することができない基本的投資制限として、ファンドは以下の行為を行うことができません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ファンドは、借入れ時のファンドの資産総額(借入金額を含みません。)の3分の1を超えて借入れをすることができません。<sup>(注)</sup></li> <li>② ファンドは、他の発行体の発行する有価証券を引き受けることができません。ただし、ファンドが、組入証券の売却に関して、特定の米国連邦証券法上引受人とみなされる場合を除きます。</li> <li>③ ファンドは、不動産を購入または売却することができません。ただし、ファンドは、不動産上の権利により担保されている証券または不動産上の権利を表章する証券を購入することができます。</li> <li>④ ファンドは、商品または商品契約を購入または売却することができません。ただし、ファンドは、金融先物契約およびオプションを購入および売却することができ、為替予約および現物商品を伴わない他の金融取引を締結することができます。</li> <li>⑤ ファンドは、貸付けをすることができません。ただし、ファンドが投資方針に従って投資することのできる債務証券(パトナムの他のファンドが発行した債務証券を含みますが、これらに限られません。)を購入することによる場合、買戻契約を締結することによる場合または投資証券の貸付けによる場合はこの限りではありません。</li> <li>⑥ ファンドは、純資産総額の75%の部分について、同一発行体の証券への投資総額がその投資の直後においてファンドの純資産総額(現在価値)の5%を超える場合には、かかる発行体の証券に投資することができません。ただし、本制限は、米国政府、その関連機関または下部機構が発行し、または利息もしくは元本について保証する有価証券または他の投資会社が発行する有価証券には適用されません。</li> <li>⑦ ファンドは、純資産総額の75%の部分について、同一発行体の発行済議決権付証券を10%を超えて取得しません。</li> <li>⑧ ファンドは、購入の結果、純資産総額の25%を超えて一業種に投資することとなるような証券(米国政府、その関連機関または下部機構の証券を除きます。)を購入しません。ただし、ファンドは通常、ファンドの純資産総額の25%を超えて、民間発行体により発行されたか、または米国政府、その関連機関もしくは下部機構の信用に裏付けられたモーゲージ証券に投資します。</li> <li>⑨ ファンドは、認められた借入れを除き、ファンドの実質的権利を表章する受益証券に優先するいかなるクラスの受益証券も発行することができません。</li> </ol> <p>(注)日本においてファンドの受益証券の募集が行われている限り、ファンドは純資産額の10%を超える借入れはできません。</p>
分配方針	ファンドは通常、純投資収益を毎月1回、また純実現売買益を毎年1回分配します。日本の投資者に対しては、販売会社または販売取扱会社より、毎月末日頃に分配金が支払われます。

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

2015年1月から2019年12月の5年間における年間騰落率(各月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと他の代表的な資産クラスとの間で比較したものです。このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



出所：管理運用会社、Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

- ・ ファンドの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ・ ファンドの年間騰落率は、ファンドの基準通貨である米ドル建てで計算されており、円貨に為替換算されておられません。したがって、円貨に為替換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ・ 代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ・ ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。ただし、ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日付で償還しているため、ファンドの2019年12月の年間騰落率は、2019年12月9日と2018年12月末日における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して算出しています。
- ・ ファンドの年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・ ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

○ 各資産クラスの指数

- 日本株・・・TOPIX(配当込み)
  - 先進国株・・・FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)
  - 新興国株・・・S&P新興国総合指数
  - 日本国債・・・BBGバークレイズE1年超日本国債指数
  - 先進国債・・・FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)
  - 新興国債・・・FTSE新興国市場国債指数(円ベース)
- (注)S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(㈱東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。なお、ファンドは、㈱東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、㈱東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)およびFTSE新興国市場国債指数(円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

## ファンドデータ

### ■ ファンドの組入資産の内容

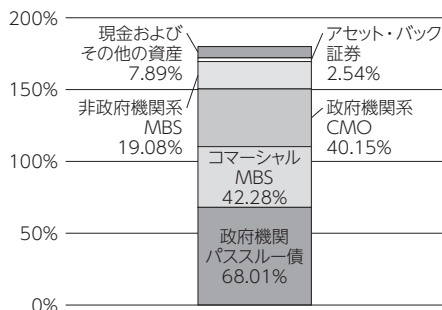
(第25期末現在)

#### ● 組入上位資産 (組入銘柄数: 874銘柄)

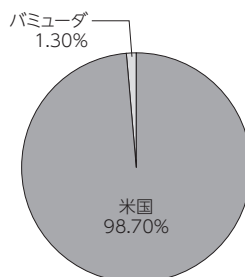
順位	銘柄	組入比率(%)
1	GNMA GII30 TBA 04.5000 10/01/2049	8.56
2	GNMA GII30 TBA 03.5000 10/01/2049	7.93
3	GNMA GII30 TBA 04.0000 10/01/2049	7.40
4	GNMA GII30 TBA 05.0000 10/01/2049	6.42
5	FNMA FN30 TBA UMBS 05.5000 10/01/2049	6.07
6	FNCL 2.50 04/01/2042	5.66
7	GNMA GII30P 783937 03.5000 11/20/2043	4.76
8	FNMA FN30 TBA UMBS 04.5000 10/01/2049	3.97
9	FNR 2007-95 A3 02.5160 08/27/2036	2.61
10	GNMA GII30P 784109 04.0000 10/20/2045	1.67

(注)組入比率はファンドの純資産総額に対する当該資産の時価(エクスポージャー・ベース)の比率です。組入資産にはデリバティブ取引が含まれます。

#### ● 資産別配分



#### ● 国別配分



#### ● 通貨別配分

〔当該情報については  
開示されていません。〕

(注1)資産別配分の比率は、2019年9月30日現在のファンドの純資産総額に占める比率です。現金およびその他の資産(もしあれば)は、現金、デリバティブ、短期投資およびポートフォリオ中のその他の未分類資産の時価(エクスポージャー・ベース)の組入比率です。デリバティブ証券の包含、経過利息、表示上の異なる証券区分および四捨五入のため、要約情報が、財務書類に記載される投資組入証券明細表と異なることがあります。資産別配分は、有価証券の時価に加え、TBA契約(もしあれば)を含む特定のデリバティブ取引について定期的な支払債務を計算するための想定元本(ノーション・バリュー)を含むため、また現金がTBA契約の一定の証券の保有のための担保に充てられることがあるため、資産別配分の合計は100%にならないこともあります。組入れおよび配分は、随時変更されます。

(注2)国別配分の比率は、純資産総額に対する組入資産の時価(エクスポージャー・ベース)の比率です。

(注3)ファンドの組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

## ■ 純資産等

項 目	第25期末	
純 資 産 総 額	927,660,319米ドル	
発 行 済 □ 数	クラスM受益証券	784,463□
1□当たり純資産価格	クラスM受益証券	13.03米ドル

	第25期		
	販売□数	買戻□数	発行済□数
クラスM 受益証券	44,383 (1,100)	91,817 (29,834)	784,463 (466,166)

(注) ( ) の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済受益証券□数です。

# パトナム・モーゲージ・ セキュリティーズ・ファンド

米国籍オープン・エンド契約型  
公募外国投資信託(米ドル建て)

## 交付運用報告書(償還報告書)

作成対象期間

第26期(2019年10月1日～2019年12月9日(償還日))

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

### その他の記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<https://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

## 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、パトナム・モーゲージ・セキュリティーズ・ファンド(以下「ファンド」といいます。)のクラスM受益証券は、2019年12月9日をもちまして繰上償還いたしました。

ファンドの投資目的は、元本確保と一貫性を有すると管理運用会社が考える高い利回りのインカム収益を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に対して、厚く御礼申し上げます。

## クラスM受益証券

第26期末	
1口当たり純資産価格	13.1499米ドル
純資産総額	5,731,462.81米ドル
第26期	
騰落率	1.64%
1口当たり分配金合計	0.093米ドル

(注1)騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注2)1口当たり分配金は、税引前の分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

管理運用会社

パトナム・インベストメント・マネジメント・エルエルシー



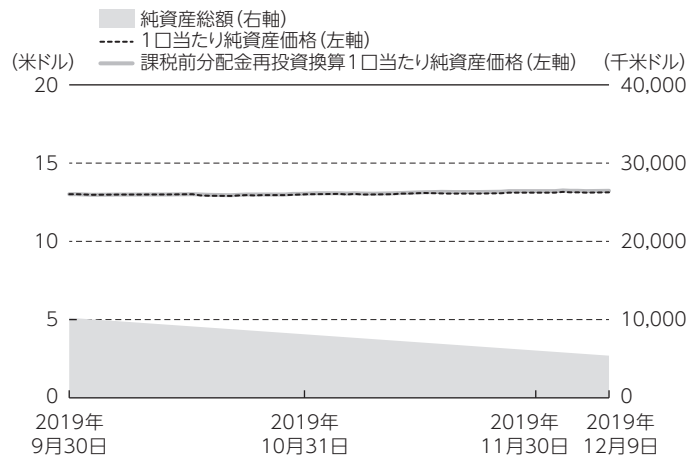
代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

## 運用経過

### ■ 当期の純資産価格等の推移

#### クラスM受益証券



1口当たり純資産価格	
第25期末	13.03米ドル
第26期末 (1口当たり分配金額)	13.1499米ドル (0.093米ドル)
騰落率	1.64%

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注2) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、第25期末(2019年9月30日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注3) ファンドにベンチマークは設定されていません。

### ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

後記「投資環境について」ならびに「ポートフォリオについて」をご参照ください。

## ■ 費用の明細

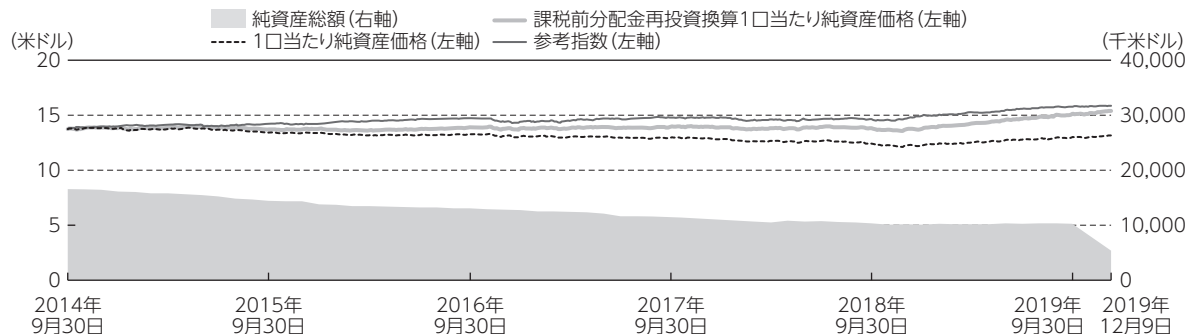
項目	項目の概要																			
管理運用報酬	<p>報酬は、月次のファンドの平均純資産に対して適用される料率で計算されます。料率は、管理運用会社が管理するすべてのオープン・エンド型ファンドの純資産総額(当該資産の「二重計算」を回避するために必要な範囲において、他のパトナム・ファンドに対して投資されるファンドの純資産および他のパトナム・ファンドにより投資されるファンドの純資産を除き、当該月の各営業日の終了時に決定されます。)の月額平均(「オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド平均純資産総額」)に基づきます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド</th> <th>平均純資産総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50億米ドル以下の部分について</td> <td>0.550%</td> </tr> <tr> <td>50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について</td> <td>0.500%</td> </tr> <tr> <td>100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について</td> <td>0.450%</td> </tr> <tr> <td>200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.400%</td> </tr> <tr> <td>300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について</td> <td>0.350%</td> </tr> <tr> <td>800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.330%</td> </tr> <tr> <td>1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.320%</td> </tr> <tr> <td>2,300億米ドル超の部分について</td> <td>0.315%</td> </tr> </tbody> </table>	オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド	平均純資産総額	50億米ドル以下の部分について	0.550%	50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について	0.500%	100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について	0.450%	200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について	0.400%	300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について	0.350%	800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について	0.330%	1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について	0.320%	2,300億米ドル超の部分について	0.315%	<p>ファンドの管理運用業務およびファンド資産に関する投資顧問業務および日々の投資運用業務の対価として管理運用会社に支払われます。</p>
オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド	平均純資産総額																			
50億米ドル以下の部分について	0.550%																			
50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について	0.500%																			
100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について	0.450%																			
200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について	0.400%																			
300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について	0.350%																			
800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について	0.330%																			
1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について	0.320%																			
2,300億米ドル超の部分について	0.315%																			
(副管理運用報酬)	<p>(管理運用会社は、副管理運用会社が運用しているファンド資産の平均純資産総額の0.25%の料率で副管理運用会社に支払います。)</p>	<p>(ファンド資産の一部に関する投資顧問業務の対価として管理運用会社から副管理運用会社に支払われます。)</p>																		
保管報酬	<p>ファンドと保管会社が随時合意したところにより、ファンド資産から、毎月、当該月中のファンド資産の日々の平均純資産総額に基づく合理的な保管報酬を受領します。</p>	<p>保管業務の対価として保管会社に支払われます。</p>																		
投資者サービス代行報酬	<p>ファンドの平均資産の年率0.250%を超えないものとします。</p>	<p>投資者サービス代行業務の対価として投資者サービス代行会社に支払われます。</p>																		
その他の費用(当期)	<p>0.06%</p>	<p>販売計画報酬、管理事務報酬ならびにその他のすべての費用</p>																		

(注)各報酬については、目録見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」については運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれています。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。



## ■ 最近5年間の純資産価格等の推移について

### クラスM受益証券



	第20期末 (2014年9月30日)	第21期末 (2015年9月30日)	第22期末 (2016年9月30日)	第23期末 (2017年9月30日)	第24期末 (2018年9月30日)	第25期末 (2019年9月30日)	第26期末 (2019年12月9日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	13.75	13.40	13.26	12.95	12.43	13.03	13.1499
1口当たり分配金合計 (米ドル)	-	0.28	0.34	0.36	0.40	0.56	0.093
騰落率 (%)	-	-0.53	1.49	0.41	-0.94	9.57	1.64
参考指数の騰落率 (%)	-	3.43	3.61	0.30	-0.92	7.80	0.40
純資産総額 (千米ドル)	16,562	14,451	13,059	11,452	10,342	10,225	5,731

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびファンドの参考指数は、第20期末(2014年9月30日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注2) ファンドの参考指数はブルームバーグ・パークレイズ・US MBS・インデックスです。

## ■ 投資環境について

当期中、モーゲージおよびリスク資産全体では、総じて良好な環境が維持されました。米連邦準備制度理事会(FRB)は、7月から10月にかけて3回にわたる利上げを経た後、楽観的な経済見通しを理由に、11月と12月に金利を現状水準に維持しました。米中貿易関係も改善の兆しを見せました。米国では、過去最低水準の失業率、賃金の大幅な上昇、堅調な個人消費が投資家のリスク資産への投資意欲を押し上げました。S&P 500指数で測った米国株式は、今期7.07%上昇しました。米国以外では、各国中央銀行が、世界の経済成長減速からの脱却に役立つよう、債券購入プログラムを含む包括的な景気刺激策を導入しました。当該期間のMSCIワールド・インデックス(配当込み)で測定したグローバル株式のリターンは6.50%でした。指標銘柄の10年米国債利回りは、期初の1.65%から2019年12月9日には1.83%に上昇しました。投資適格債のスプレッド、すなわち投資家が米国債ではなくこれらの証券を保有するために求めるリスク・プレミアムは、この期間に縮小しました。

## ■ ポートフォリオについて

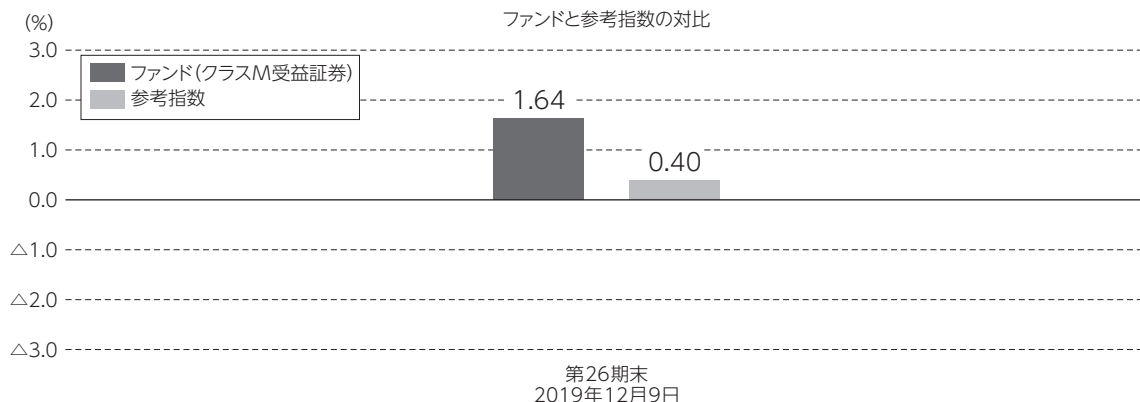
### ファンドの業績に貢献した戦略について

当ファンドMクラスのリターンは1.64%で、参考指数であるブルームバーグ・バークレイズ・US・MBS・インデックス(0.40%)を上回りました。メザニン商業用モーゲージ証券(CMBS)への配分は、主に2012年に発行されたBBB格のCMBXのエクスポージャーがパフォーマンスの助けとなりました。CMBXは、特定の年に発行されるCMBSのバスケットを参照するインデックスです。ショート・カバーに加え、ロング・ポジションに対する投資家の需要も、同期間中、CMBXのテクニカル面で好材料となりました。さらに、市場は、2019年10月下旬に発表されたロング・インデックス・ポジションを支持する調査レポートに好意的に反応しました。住宅ローン債権に対するエクスポージャーは、クレジット・リスク・トランスファー証券(CRT)の中での銘柄選択がけん引役となり、パフォーマンスにわずかながら寄与しました。大半の期間において、参考指数に対して相対的に短期債側にシフトしたポジションは、米国債の中期債ゾーンの利回りが上昇するにつれて、ファンドに多少の恩恵をもたらしました。

### ファンドのパフォーマンスにマイナスになった戦略について

プリペイメント戦略が当期の唯一のマイナス要因となりました。インタレスト・オンリー・リバース・モーゲージのエクスポージャーとモーゲージ・ベースのショート・ポジションは、期間中アンダーパフォームとなりました。後者については、短期金利の上昇とボラティリティの低下に伴い、その後にベースがタイト化したことによります。

## 参考指数との差異について



(注) ファンドの参考指数はブルームバーグ・バークレイズ・US MBS・インデックスです。

## 分配金について

当期(2019年10月1日～2019年12月9日)の1口当たり分配金(税引前)は下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

クラスM受益証券

(金額:米ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金 (対1口当たり純資産価格比率(%)(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額(注2)
2019年10月17日	12.96	0.047 (0.36%)	0.11(注3)
2019年11月18日	13.07	0.046 (0.35%)	0.16

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%)=100×a/b

a=当該分配落日における1口当たり分配金

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額=b-c

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2019年10月17日の直前の分配落日(2019年9月18日)における1口当たり純資産価格は、12.90米ドルでした。

## 今後の運用方針

ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日に償還しました。

## お知らせ

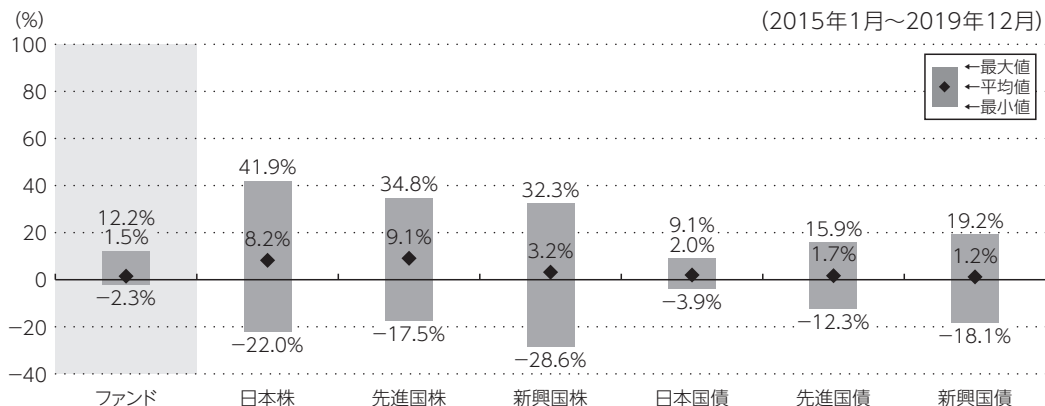
ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日に償還しました。

## ファンドの概要

ファンド形態	米国籍オープン・エンド契約型公募外国投資信託
信託期間	無期限。ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日に償還しました。
繰上償還	ファンドまたはいずれかのシリーズもしくはいずれかのシリーズのクラスは、①受託者がファンドの受益者または当該シリーズもしくはクラスの受益者に書面で通知することにより、または②(i)議決権を有する各シリーズまたはクラスの発行済受益証券の50%超、もしくは(ii)当該目的のために招集された総会において、議決権を有する各シリーズまたはクラスの発行済受益証券の50%超が出席または代理出席した場合、その議決権を有し、その総会に出席する各シリーズまたはクラスの受益証券の67%超の、いずれか少ない数の賛成票により、いつでも終了させることができます。
運用方針	ファンドの投資目的は、元本確保と一貫性を有すると管理運用会社が考える高い利回りのインカム収益を追求することです。
主要投資対象	ファンドは、主に、投資適格または投資適格未満のモーゲージ証券、モーゲージ関連証券および関連するデリバティブ(モーゲージ証券またはモーゲージ関連証券のエクスポージャーを取得するため、もしくは裏付証券がモーゲージ証券またはモーゲージ関連証券であるデリバティブ)に投資します。通常、ファンドは、ファンドの純資産総額(投資目的の借入れ額を加えます。 )の80%以上をモーゲージ証券、モーゲージ関連証券および関連するデリバティブに投資します。
ファンドの運用方法	ファンドの運用チームはチーム・アプローチを採用しており、約90名で構成される管理運用会社の債券運用部門の一部であるマルチ・セクター債券チームの幅広いリソースを利用して運用しています。
主な投資制限	<p>議決権を有する発行済受益証券の過半数の賛成なくしては変更することができない基本的投資制限として、ファンドは以下の行為を行うことができません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ファンドは、借入れ時のファンドの資産総額(借入れ額を含みません。 )の3分の1を超えて借入れをすることができません。<sup>(注)</sup></li> <li>② ファンドは、他の発行体の発行する有価証券を引き受けることができません。ただし、ファンドが、組入証券の売却に関して、特定の米国連邦証券法上引受人とみなされる場合を除きます。</li> <li>③ ファンドは、不動産を購入または売却することができません。ただし、ファンドは、不動産上の権利により担保されている証券または不動産上の権利を表章する証券を購入することができます。</li> <li>④ ファンドは、商品または商品契約を購入または売却することができません。ただし、ファンドは、金融先物契約およびオプションを購入および売却することができ、為替予約および現物商品を伴わない他の金融取引を締結することができます。</li> <li>⑤ ファンドは、貸付けをすることができません。ただし、ファンドが投資方針に従って投資することのできる債務証券(パトナムの他のファンドが発行した債務証券を含みますが、これらに限られません。)を購入することによる場合、買戻契約を締結することによる場合または投資証券の貸付けによる場合はこの限りではありません。</li> <li>⑥ ファンドは、純資産総額の75%の部分について、同一発行体の証券への投資総額がその投資の直後においてファンドの純資産総額(現在価値)の5%を超える場合には、かかる発行体の証券に投資することができません。ただし、本制限は、米国政府、その関連機関または下部機構が発行し、または利息もしくは元本について保証する有価証券または他の投資会社が発行する有価証券には適用されません。</li> <li>⑦ ファンドは、純資産総額の75%の部分について、同一発行体の発行済議決権付証券を10%を超えて取得しません。</li> <li>⑧ ファンドは、購入の結果、純資産総額の25%を超えて一業種に投資することとなるような証券(米国政府、その関連機関または下部機構の証券を除きます。)を購入しません。ただし、ファンドは通常、ファンドの純資産総額の25%を超えて、民間発行体により発行されたか、または米国政府、その関連機関もしくは下部機構の信用に裏付けられたモーゲージ証券に投資します。</li> <li>⑨ ファンドは、認められた借入れを除き、ファンドの実質的権利を表章する受益証券に優先するいかなるクラスの受益証券も発行することができません。</li> </ol> <p>(注)日本においてファンドの受益証券の募集が行われている限り、ファンドは純資産額の10%を超える借入れはできません。</p>
分配方針	ファンドは通常、純投資収益を毎月1回、また純実現売買益を毎年1回分配します。日本の投資者に対しては、販売会社または販売取扱会社より、毎月末日頃に分配金が支払われます。

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

2015年1月から2019年12月の5年間ににおける年間騰落率(各月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと他の代表的な資産クラスとの間で比較したものです。このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



出所：管理運用会社、Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

- ・ ファンドの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ・ ファンドの年間騰落率は、ファンドの基準通貨である米ドル建てで計算されており、円貨に為替換算されておりません。したがって、円貨に為替換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ・ 代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ・ ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。ただし、ファンドのクラスM受益証券は2019年12月9日付で償還しているため、ファンドの2019年12月の年間騰落率は、2019年12月9日と2018年12月末日における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して算出しています。
- ・ ファンドの年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・ ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

○ 各資産クラスの指数

- 日本株・・・TOPIX(配当込み)
  - 先進国株・・・FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)
  - 新興国株・・・S&P新興国総合指数
  - 日本国債・・・BBGバークレイズE1年超日本国債指数
  - 先進国債・・・FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)
  - 新興国債・・・FTSE新興国市場国債指数(円ベース)
- (注)S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(㈱東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、ファンドは、(株)東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)およびFTSE新興国市場国債指数(円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

## ファンドデータ

### ■ ファンドの組入資産の内容

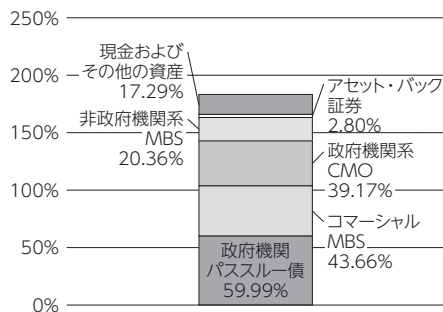
(第26期末現在)

#### ● 組入上位資産 (組入銘柄数: 917銘柄)

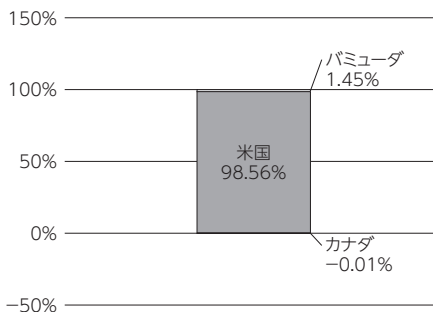
順位	銘柄	組入比率(%)
1	GNMA GII30 TBA 04.0000 01/01/2050	11.21
2	FNMA FN30 TBA UMBS 03.0000 01/01/2050	8.88
3	FNMA FN30 TBA UMBS 04.5000 01/01/2050	8.44
4	FNMA FN30 TBA UMBS 05.5000 01/01/2050	6.00
5	FNCL 2.50 04/01/2042	5.47
6	FNMA FN30 TBA UMBS 03.0000 02/01/2050	4.76
7	GNMA GII30 TBA 04.5000 12/01/2049	3.91
8	FNR 2007-95 A3 02.0727 08/27/2036	2.59
9	FHS 315 PO PO 00.0000 09/15/2043	1.35
10	FNMA FN30 TBA UMBS 06.0000 01/01/2050	1.35

(注)組入比率はファンドの純資産総額に対する当該資産の時価(エクスポージャー・ベース)の比率です。組入資産にはデリバティブ取引が含まれます。

#### ● 資産別配分



#### ● 国別配分



#### ● 通貨別配分

[当該情報については  
開示されていません。]

(注1)資産別配分の比率は、2019年12月9日現在のファンドの純資産総額に占める比率です。現金およびその他の資産(もしあれば)は、現金、デリバティブ、短期投資およびポートフォリオ中のその他の未分類資産の時価(エクスポージャー・ベース)の組入比率です。デリバティブ証券の包含、経過利息、表示上の異なる証券区分および四捨五入のため、要約情報が、財務書類に記載される投資組入証券明細表と異なることがあります。資産別配分は、有価証券の時価に加え、TBA契約(もしあれば)を含む特定のデリバティブ取引について定期的な支払債務を計算するための想定元本(ノーション・バリュー)を含むため、また現金がTBA契約の一定の証券の保有のための担保に充てられることがあるため、資産別配分の合計は100%にならないこともあります。組入れおよび配分は、随時変更されます。

(注2)国別配分の比率は、純資産総額に対する組入資産の時価(エクスポージャー・ベース)の比率です。

## ■ 純資産等

項 目	第26期末	
純 資 産 総 額	934,798,182米ドル	
発 行 済 口 数	クラスM受益証券	435,856口
1口当たり純資産価格	クラスM受益証券	13.1499米ドル

	第26期		
	販売口数	買戻口数	発行済口数
クラスM 受益証券	4,215 (0)	352,822 (30,310)	435,856 (435,856)

(注) ( )の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済受益証券口数です。